危険なブタン輸送

ガスもれでもしたら大惨事

三里校区連協　片山末吉

三井コークスは今まで、コークスガスを家庭用として、熊本市へ（西部ガスの手で）送ってきました。こんどは、コークス炉が老朽化したから廃止して、ブタンを原料とするガス発生工場を、現場に設置することにしました。

その原料のブタンを、三池港南壁三号桟橋から、同臨海地のブタン貯蔵庫二基（二十万立方メートル。九百五十トン入り）に陸揚げして、そこから三井専用鉄道沿いに大牟田市合成町の三井コークス新ガス工場まで、一～二メートルほど埋めた四インチパイプで輸送する、と発表。十一月一日より四区間に分けて一斉に着工する、といっています。

数年前、三井はコークスガスを熊本へ送るパイプを敷設する際、すすんで住民へ計画を説明しましたが、今度は素知らぬ顔で通しています。私たちの追及で、やっと市が重い腰をあげ、行政指導を行った結果、やっと十月五日にいたり四山講堂での説明会となり、私たちは十月三日山口県防府市で起きたアルコールタンクの爆発事例をあげ、追及しました。

ブタンの着火温度は、都市ガスが七百五十度に対し四百五十五度と低く、空気よりも重く、毒性が強いとされています。しかも輸送中は液体ですが、パイプからもれると、零度で三百五十倍に膨張して気体（ガス）となる、非常に危険性の高い物質です。

周知のように四山社宅は埋め立て地ではあり、三井専用鉄道沿線など振動を思えば、特に危険度が高くなるのは指摘するまでもありません。ガスもれでもあった場合に、もしそこへ鉄道の火花でも引火するか、あるいは地震でもあれば、とんでもない大惨事をひき起こすことは明らかです。

愛知県でも同様な問題が発生したことがありますが、ここでは住民の反対運動が強かったために、輸送用パイプを、人家より三百メートルも離したところに敷設したものです。

また、三井コークスから熊本へ供給するガスパイプラインは、今回のように三井の用地内でなかったことがさいわいして、道路をそのために補修させたり、計画の一部を変更させたりすることができ計画から一年も遅れてやっと工事が実施されたものです。

三井の用地内だということで、十分な説明も、また対策も明らかにされないまま工事に着工されたのでは、住民はたまったものではありません。

三里校区連協（立山義人議長）では、住民の命と暮らしを守る闘いの一環として、反対闘争を強化することとなり、すでに地域へのビラ配布など具体的な活動に立ちあがっています。

ブタンの輸送の危険を訴え、反対するよう呼びかける立看板。

すばらしい1日だった

手記

三川指導部――

椛島敬三・田中繁満

九月二十四日、三川指導部坑外職場分会にて、家族を含めた阿蘇仙酔峡旅行を行いました。組夫の方も数名参加し、〝山源〟前を肥後路に向けて出発しました。

車中酒も回り、歌の大合唱。チビッコの歌などもまじり、爆笑の渦の中を目的地へ。一同ロープウエイに乗り、白い雄大な煙をはく火口へ。そして中食。

阿蘇の風景を背景に、組合員・家族が輪をつくって談笑する中、歌と青田君発案の風船割り。風船の中にキャンデーを入れてのゲームには、みんなの驚きが。よそからやってきた回りの人達は、「何ごとだ」と不思議がり、ことがわかると拍手喝采。思い思いにカメラのシャッターをきる人もあり、自然の中にとけこんでの一大交響楽。

最後に宝さがしゲームなどをして、微笑ましい親と子の情愛など織りまぜ、明日からの幸福のためにひとふんばりすることを誓い、太陽も落ちんとする仙酔峡をあとに全員無事家路についた。

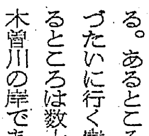
×

今、職場・グループ・地域・家族の旅行やレクリエーションがさかんなようです。どうか楽しい思い出を、どしどし寄せて下さい。【編集部】

「さあ、元気を出して。もうすぐそこだよ」と声をかけ合いながら、登るみんな。

秋に思う

明治分会　猿渡静子



秋。私は秋が大好き。四季の秋、味覚の秋読書の秋……。

読書といえば、日頃はあまり読まないのですが、曼珠沙華やコスモスが咲く頃になると、手もとにある本をひっぱり出しては何回も読みます。

なかでも好きなのが、島崎藤村の〝夜明け前〟。

「木曽路はすべて山の中である。あるところは岨（そば）づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曽川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた」

このような書き出しで始まり吉左衛門、金兵衛、半蔵なる人物が登場し、今と違って馬を使って往き来していた様子がよくわかります。

次に、夏目漱石の〝吾輩は猫である〟。「名前はまだ無い。どこで生れたか頓と見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャ泣いていた事丈は記憶している。吾輩はここで初めて人間というものを見た。然もあとで聞くとそれは書生という、人間中で一番どう悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である」

漱石のはおもしろくて、何回読んでもあきません。

石川啄木の〝一握の砂〟も好きな本です。

東海の小島の磯の白砂にわれ
泣きぬれて蟹とたはむる

大という字を百あまり砂に書き死ぬことやめて帰り来れり

たわむれに母を背負いてそのあまり軽きに泣きて三歩あゆまず

父母、砂、死などについて書かれた歌が多く、貧しさの中より生れたことを思わせます。

北原白秋といえば、柳川に住んでいた人で忘れる事はできません。筑後を愛し、柳川こそ白秋の産土であり、水の色と、香りと、温度との輝きこそは幼き白秋を育てたのだといわれます。私は高校時代に音楽会に参加しては、白秋の〝帰去来〟を歌ったものです。

山門は我が産土（うぶすな）
雲騰（あが）る南風（はえ）のまほら
飛ばし今ひとたび
…………（中略）
ふるさとやそのかの子ら
皆老いて遠きに
何ぞ寄る童ごころ

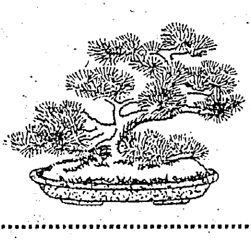
×

主婦の皆さん、この欄へ手記を寄せましょう。

編集部

大砂社宅26棟に住む江崎正行さん所有の、さつきの盆栽。びつしりと花芽がきていた。江崎さんがさつきにとりつかれたのは、三池闘争前後から。60鉢もあろうが。去る8月退職

園芸



寒がり植物

―その保護の仕方は？

三川指導部　田上勇

今年は、例年になく寒さが早く来そう。可愛い植物を寒さから守るために、早や目に越冬準備を致しましょう。

インドゴム、シュロチク、カンノンチク、オリヅルラン、ハマユウ、君子ラン、アスパラガス、タマシダ、四季咲きベコニヤ、ランタナ、アロエ、ノボタン、フリージャ、ラナンキュラス……などは直接霜に当てさえしなければ枯れることもないので、あわてることもありませんが、それでも厳寒には、冷たい風や寒気に耐える設備が必要。特に水やりは、日中の暖いうちに。できれば午前十時頃が適当でしょう。

ドラセナ、ポトス、マランタなどの観葉植物や、サンタンカ、ハイビスカス、ハナキリン、カニバシャボテン、アナナスなどは寒さに弱いので、早や目に保護を。私も五年ほど前、まだよかろうとつい油断したばかりに、一夜にしてやられてしまった経験をもっています。

サンセベリア（虎の尾）は、十一月頃から三月中頃までは水は一滴も与えないようにしましょう。枯れることはありません。

庭木などの越冬準備も大切で、今まで伸び放題に育った枝や新しい梢など、剪定して形をととのえます。樹冠のなかで弱っている小枝や、こんだ枝は間びき、形を乱すように飛び出した枝は刈りこんで、樹形をととのえます。でも来春に咲くツバキ、サザンカ、ボタン、チンチョウゲなどは花芽をすでにつけていますので、特に形の悪い部分をのぞき、花が咲き終った時点でととのえるのがよいでしょう。

梅、海ドウなどは、うすい水肥を与えます。

×

筆者は宮浦盆栽会会員です。

生命の尊さうたう

『翼は心につけて』映画化

命の尊さを美しく描いた映画『翼は心につけて』は、感動的です。

この作品は、ガンと闘って死んだ実在の少女を描いた原作を映画化したもので、これといった興味を呼ぶストーリーがあるわけではありません。しかし、原作に感動した多くの母親、少年少女の熱い期待を受けて作られた作品だけにみずみずしい感じ、あくまでも純粋に美しく描かれ、これが見る側に新鮮な感動を呼び起こすのでしょう。ぜひ親子で鑑賞を。（一時間五十五分）